

# IWAKI

## IR Report

株主の皆様へ 第80期 事業報告書

2018年12月1日 ▶ 2019年11月30日

### Contents

- P 1 トップメッセージ  
代表取締役社長  
**岩城 慶太郎**
  - P 5 セグメント別の概況
  - P 7 連結財務・非財務ハイライト
  - P 8 連結財務諸表（要旨）
  - P 9 小さな社会貢献活動への取り組み
  - P 10 会社概要／株式情報
- 裏表紙 ホームページのご案内



**イワキ株式会社**

証券コード：8095



株主の皆様におかれましては、平素より当社グループへのご理解と厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第80期（2018年12月1日から2019年11月30日まで）における営業状況をご報告し、近年の経営改革および今後の方向性についてご説明させていただきます。ご一読の上、さらなる飛躍を目指す当社グループに引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2020年2月

イワキ株式会社 代表取締役社長

**岩城 慶太郎**

**医薬・FC事業の好調が増収・増益を牽引  
グループ中長期ビジョンも順調に進捗**

当期（2019年11月期）の連結業績は、売上高が4期連続の増収を達成し、616億4千7百万円（前期比2.6%増）となり、営業利益は21億2千1百万円（同14.7%増）、経常利益は23億1千8百万円（同15.9%増）と、それぞれ3期連続で過去最高を更新しました。親会社株主に帰属する当期純利益は15億3千3百万円（同8.4%増）となりました。

事業環境を振り返ると、日韓関係の悪化によるインバウンド消費の減少や中国の税制変更を受けた海外向

け販売の減少がHBC事業の低調を招いたほか、米中貿易摩擦の波及や10月に実施された消費増税および中間年薬価改定の影響など、多くの逆風が生じた一年でした。しかし、医薬品原料の好調とともに外皮用剤の販売を伸ばした医薬・FC事業が全体の業績を支え、増収・増益を果たすことができました。

近年の業績の伸長により、2016年1月に発表したグループ中長期ビジョン「Vision “i-111”」も極めて順調に進捗しています。「Vision “i-111”」は、2025年11月期の連結業績における「売上高1,000億円以上」「No.1マーケットシェア」「ROIC（投下資本利益率）10.0%以上」の達成を目指しており、

特にROICは2015年11月期の1.7%から4年間で6.0%へと顕著な改善を示しています。

2025年に向け、每期ローリング方式で推進中の3か年中期経営計画は、2021年11月期の連結業績目標として設定した「売上高700億円」「営業利益28億円」「ROIC 8.0%以上」に対して、利益成長が先行する形で進捗しており、今後は売上の拡大も加速してまいります。

**今期は売上高・利益とも過去最高更新へ  
新領域・新事業で売上高を拡大**

今期（2020年11月期）の連結業績は、引き続き増収・増益を維持し、売上高640億円（当期比3.8%増）、営業利益22億円（同3.7%増）、経常利益24億円（同3.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益17億円（同10.9%増）と、いずれも過去最高を更新する見込みです。この業績予想を前提として今期の年間配当額は、4期連続の増配となる1株当たり14円（中間配当・期末配当ともに同7円）を予定しています。

なお当社グループは、今期より事業セグメントを「ファインケミカル事業」「医薬事業」「HBC・食品事業」「化学品事業」の4区分に変更しました。これは従来の「医薬・FC事業」を、より各事業に沿った戦略実行を可能とするために、医薬品原料を主とする「ファインケミカル事業」と医薬品を主とする「医薬事業」に分割するとともに、従前は担当事業部が分かれていた機能性食品原料と食品原料の領域における「策揃え」強化を目的として「HBC事業」と「食品事業」を「HBC・

食品事業」として統合したものです。

3か年中期経営計画のローリングについては、定量目標を見直し、2022年11月期の連結業績における「売上高750億円」「営業利益32億円」「ROIC 8.5%以上」として再策定しました。計画期間の年平均成長率は、売上高がローリング前の5.4%から8.3%へ、営業利益が18.3%から20.6%へと、一段高い目標設定になっていますが、引き続き利益水準を維持しつつ、今後は既存事業に加え、新領域への事業投資やM&Aを含む新規事業などの成長による売上拡大によってこの目標を越えていく考えです。

**事業環境の良さに助けられた3年間  
将来の成長に向けた経営改革を推進**

2017年2月の社長就任から3年が経過しました。この間当社グループは、創業以来最高の営業利益額を3度更新するなど、良い業績を残すことができましたが、これは過年度における諸取り組みの成果であり、様々な環境変化に対して機敏に対応できた従業員の努力の結果であります。私はその間、将来の成長に向けた経営改革を推進し、自らを大きく変化させていくための体制づくりに取り組んできました。その結果、以下に述べる五つのテーマにおいて、目には見えにくいですが、着実な成果を上げています。

一つ目は「取締役会のあり方とコーポレートガバナンス」です。これまで取締役会の承認を得るために時間をかけていた事前審議を簡素化し、取締役会の中で多くの議論を行う形に変えたことが、意思決定のスピード

アップとともに取締役会の活性化をもたらしました。

また社外取締役を3名に増員し、各自の専門的な知見や経験にもとづく助言などを通じて、企業価値の向上に積極的に関わってもらっています。さらに、社外役員を中心に構成する指名・報酬・コーポレートガバナンスの各諮問委員会を発足するなど、経営の透明性を高めるための整備を進めました。

二つ目は「事業再編を進めやすい組織づくり」です。セグメント区分に合わせた事業部制を導入し、各事業部への権限移譲を進めたことで、意思決定のスピードアップを果たしました。同時に、経営管理部の中に子会社売却や事業譲受・M&Aなどを担当する専門部署を設置し、事業投資の推進体制を強化しました。これは、日立化成株式会社からのプリント配線板用薬品事業の譲受、新分析センター「IWノースキューブ」の開設、子会社3社の売却などの進展につながっています。

三つ目は「株主還元の拡充とIR活動の強化」です。当社は、株主の皆様への利益還元を充実させるべく、2018年11月期から「純資産配当率(DOE)1.5%を下限とし、配当性向30%を目途とする」配当方針に変更しました。安定的かつ業績連動性のある方針のもと、当期まで3期連続増配を実施しています。一方、IR活動については、当期は特に個人投資家・株主の皆様に向けたIR活動を強化し、全国約15カ所で会社説明会を開催しました。このたび導入した株主優待制度は、会社説明会にご参加いただいた皆様のご意見に耳を傾け、株主施策に反映したものです。当社株式をご保有の個人株主様は、当期中に大きく増加しており、こうした取り組みの成果として受け止めています。



四つ目は「役員および従業員の報酬・人事制度の整備」です。役員報酬については、2017年より当社の取締役（社外取締役を除く）および岩城製薬、メルテックスの取締役を対象とする株式報酬制度を導入しました。企業価値向上へのインセンティブに資する仕組みを通じて、業績と株価によりコミットしていくことが目的です。また、この主要事業会社3社では、3年前から人事制度をほぼ同時に変更し、近年の業績改善を踏まえた給与改定とともに、従業員一人ひとりの成果を報酬・人事に反映しやすくする制度改革を実施しました。

最後に「グループビジョン推進室の設置」です。当社グループは、全社で価値観を共有し、創出を目指すコアバリューとして「SH（安全衛生）+E（環境）+EG（倫理・尊厳の尊重/真心）」を掲げています。善き会社づくり・人材の育成を意図する「G=Goodwill」が当社グループの特長的な価値観ですが、

いずれも事業成長に集中しながら実践していくことが難しいテーマです。そのため、2017年12月に社長直轄の専門部署「グループビジョン推進室」を設置し、コアバリュー創出の取り組み強化を図りました。現在、障がい者雇用や子育て・介護世代支援、テレワーク、健康経営などのテーマにおいて活動が進み、グループ内に浸透しつつあります。

### 次なる成長への準備は整った 事業全体の変革・成長のギアを変える

2025年に向けた中長期ビジョン「Vision “i-111”」は、始動から4年が経過し、今期末で10年間の折り返し地点を迎えます。これまでの取り組みにより、事業規模拡大への準備と種蒔きが完了したことを踏まえ、今期からは育成および収穫を目指し、「IWノースキューブ」「新規事業プロジェクト」「策揃えのさらなる深化」を中心に成長へのアクセルを踏んでいきます。

2019年12月から本格稼働を開始した新分析センター「IWノースキューブ」は、当社グループが今まで提供できなかった機能を補完し、さらなるビジネスチャンスを創出していくためのカギとなる施設です。今後の拡がり期待できるジェネリック抗がん剤など、高薬理活性医薬品原料の領域に参入する上で必要な分析機能を備えています。

「新規事業プロジェクト」については、2021年6月の立ち上げを目指しており、6名の社員を事業構想大学院大学に派遣し、プロジェクトを始動しました。SDGsテーマにも関わるような、社会課題の解決に寄与しつつ

収益性が見込めるビジネスを展開していく考えです。

そして当社グループは、ワンストップでお客様の課題を解決する「策揃え」の深掘りに向け、M&Aなどを通じて事業基盤の強化を図ります。提供可能な製品・サービスの総動員による「策揃え」を進めていく上で、各事業部では保有技術や製造キャパシティなどの不足による問題が生じています。それらを補完すべくM&Aや事業譲受を実施し、より深化した「策揃え」を実現します。

今期以降、これまで蒔いてきた種が次々と開花し、成長のギアは明らかに段階が上がっていくでしょう。

### 変化するべきこと・維持すべきことを見極め さらなる飛躍にチャレンジし、再成長へ

3年前の社長就任以降、業績は過去最高益を更新し、当社の株価水準は2倍以上となりました。しかし株価純資産倍率(PBR)を見れば、株価は未だにアンダーバリューであり、株主の皆様のご期待に応えられていないことを実感します。当社グループの価値を広く世の中に認めていただけるよう、経営のスピード感を高め、さらなる飛躍にチャレンジしてまいります。

同時に、そのスピード感が拙速につながらないように、「変化するべきこと」と「維持すべきこと」を見極めることが大切であると考えています。100年企業として培ってきた善きDNAを受け継ぎつつ、新たな価値づくりへの努力を楽しみ、株主の皆様とともに発展を分かち合う企業グループを目指します。創業100年を超えてなお再成長し続けるイワキグループにご期待ください。

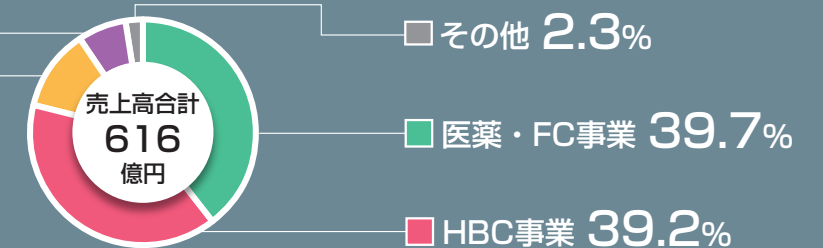


お取引先様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクト毎のバリューチェーンに従って医薬・FC (Fine Chemical) 事業、HBC (Health & Beauty Care) 事業、化学品事業、食品事業の4つの事業を展開しています。

売上高構成比  
(2019年11月期)

食品事業 6.9%

化学品事業 11.9%



医薬・FC事業  
※FC=Fine Chemical  
イワキ株式会社  
岩城製薬株式会社

● 事業内容

医薬品原料・医薬品の開発・製造から販売、また臨床検査薬などの販売も行っています。



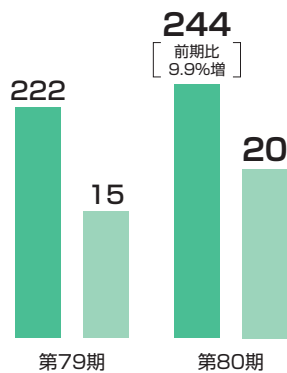
● 当期のポイント

医薬品原料分野では、抗アレルギー剤群、潰瘍性大腸炎薬が堅調に推移し、また販売価格の是正も徐々に進行。受託の電子・機能性材料も好調に推移。

医薬品分野では、外皮用剤の副腎皮質ホルモン剤など主力品の売上が伸長。また、提携品や新製品の男性型脱毛治療薬の売上が伸長。

○ 業績推移 ○

単位：億円  
■ 売上高 ■ 営業利益



HBC事業  
※HBC=Health & Beauty Care  
イワキ株式会社  
APROS

● 事業内容

一般用医薬品、化粧品原料・機能性食品原料の販売、化粧品の通信販売およびOEMなどを行っています。



● 当期のポイント

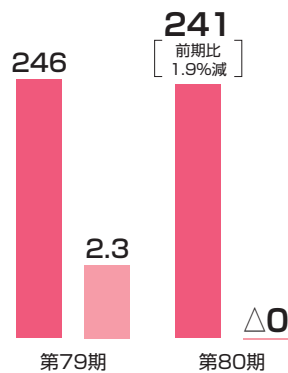
機能性食品原料および化粧品原料分野では、最終製品販売の不調や海外向け需要の減少などにより低調に推移。

一般用医薬品を主体とした卸売分野では、インバウンド需要の鈍化により低調に推移。

通販化粧品分野では、主力製品の既存顧客向けプロモーションの好調、一部新製品の好調により堅調に推移。

○ 業績推移 ○

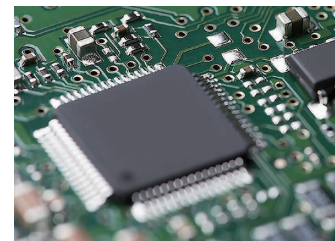
単位：億円  
■ 売上高 ■ 営業利益



化学品事業  
Meltex

● 事業内容

表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。



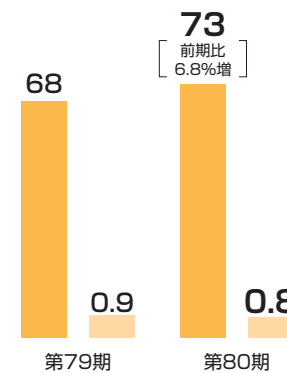
● 当期のポイント

表面処理薬品分野では、プリント配線板向け薬品は、海外を中心に銅めっき添加剤の新規販売が伸長し、国内はUBMなどの半導体向け薬品が伸長。一方で受動部品向けは需要予測に届かず、市場全体が貿易問題などの影響を強く受け低調に推移。

表面処理設備分野では、利益改善活動を進めたことにより、営業利益は堅調に推移。

○ 業績推移 ○

単位：億円  
■ 売上高 ■ 営業利益



食品事業  
イワキ株式会社  
ポーエン化成株式会社

● 事業内容

食品原料などの製造・販売を行っています。

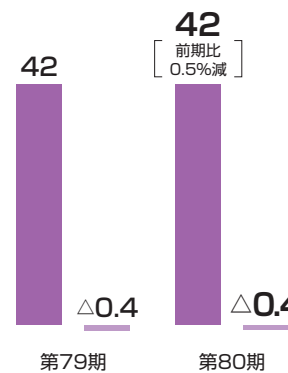


● 当期のポイント

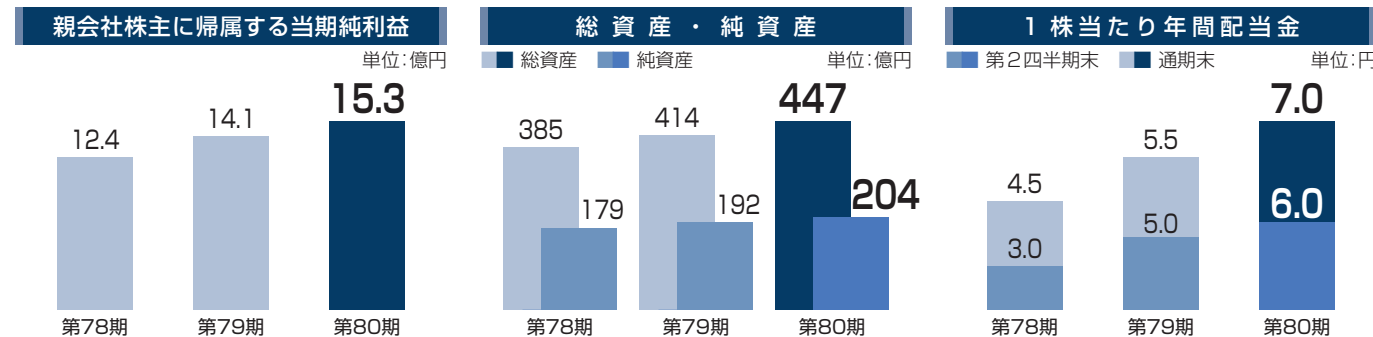
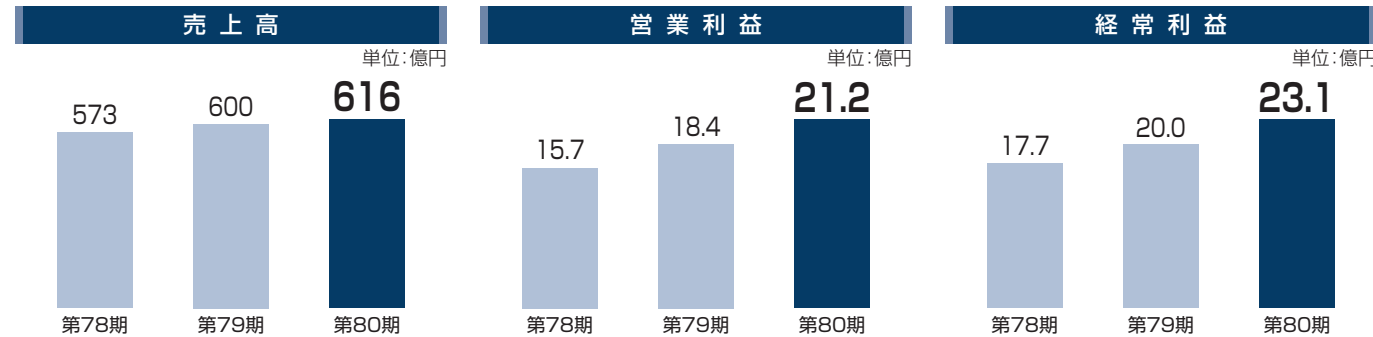
食品原料分野では、顧客の製品終売、在庫調整などによる原料販売の減少などの影響があったものの、健康志向食品向け原料の需要増加により堅調に推移。

○ 業績推移 ○

単位：億円  
■ 売上高 ■ 営業利益



売上高	第79期 600億円	→	第80期 616億円
営業利益	18.4億円	→	21.2億円
経常利益	20.0億円	→	23.1億円
親会社株主に帰属する当期純利益	14.1億円	→	15.3億円



<b>ROIC</b> (投下資本利益率) 中長期ビジョン「Vision「i-111」」 目標値10.0%に向けて着実に進捗 <b>6.0%</b>	<b>アプロス</b> 「シルキーカバーオイルブロック」 通販・化粧品下地部門 (※TPCマーケティングリサーチ(株)調べ) <b>国内シェア No.1</b>	<b>受動部品向け</b> 中性すすめっき薬品世界シェア ニッチマーケットで 地位を確立 <b>No.1</b>	<b>ドクターズコスメ</b> 「NAVISION」ラインナップ 美容医療研究から生まれた 化粧品販売に注力 <b>約37品目</b>
--	--	--	---

連結貸借対照表

科目	(単位: 百万円)	
	第80期 2019.11.30現在	第79期 2018.11.30現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	30,376	27,844
固定資産	14,338	13,586
有形固定資産	7,934	7,377
無形固定資産	1,462	1,130
投資その他の資産	4,941	5,077
資産合計	44,715	41,431
<b>負債の部</b>		
流動負債	20,841	19,034
固定負債	3,441	3,176
負債合計	24,283	22,211
<b>純資産の部</b>		
株主資本	18,866	17,581
資本金	2,663	2,637
資本剰余金	4,308	4,254
利益剰余金	12,431	11,285
自己株式	△537	△595
その他の包括利益累計額	1,556	1,606
その他有価証券評価差額金	1,414	1,477
繰延ヘッジ損益	3	3
為替換算調整勘定	84	77
退職給付に係る調整累計額	54	47
非支配株主持分	8	32
純資産合計	20,431	19,219
負債純資産合計	44,715	41,431

連結損益計算書

科目	(単位: 百万円)	
	第80期 2018.12.1~2019.11.30	第79期 2017.12.1~2018.11.30
売上高	61,647	60,083
売上原価	48,266	47,472
売上総利益	13,381	12,611
販売費及び一般管理費	11,259	10,762
営業利益	2,121	1,849
営業外収益	280	237
営業外費用	83	85
経常利益	2,318	2,000
特別利益	42	36
特別損失	55	57
税金等調整前当期純利益	2,305	1,979
法人税、住民税及び事業税	776	648
法人税等調整額	△16	△96
法人税等合計	760	552
当期純利益	1,544	1,427
非支配株主に帰属する当期純利益	11	12
親会社株主に帰属する当期純利益	1,533	1,414

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	(単位: 百万円)	
	第80期 2018.12.1~2019.11.30	第79期 2017.12.1~2018.11.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,603	1,655
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,656	△1,973
財務活動によるキャッシュ・フロー	324	138
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15	△8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	255	△188
現金及び現金同等物の期首残高	4,540	4,729
現金及び現金同等物の期末残高	4,795	4,540



(2019年11月30日現在)

## ボランティア活動について



2019年11月16日、イワキの福岡支店の社員が福岡県内の一斉ボランティアDayである「勤マルの日」のボランティアイベントに参加しました。天神中央公園の花壇に、春に向かっての花の植替えを行いました。今後もボランティアを通じて、地域へ貢献してまいります。

## 献血について



2019年12月20日、メルテックス熊谷工場において日本赤十字社で協力のもと献血活動を実施しました。今回も多くの社員が献血に協力しました。今後も継続して実施していきます。

## アダプト活動について



岩城製薬は2012年から「中央区緑のアダプト活動」に参加しております。

東京都中央区保有の花壇を区に代わって管理・運営しており、年4回の花の植替え、日々の水まきや雑草取りなどを実施しております。

## 清掃活動について



2019年11月2日、メルテックスで働く従業員とその家族にて事業所周辺の道路、公園を中心とした清掃活動を実施しました。

また11月27日、熊谷工場においても工場周辺の清掃活動を行いました。清掃活動を通して、今後も地域の環境美化に貢献してまいります。

## 会社概要 (2019年11月30日現在)

社名	イワキ株式会社	
本社所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号	
創業	1914年(大正3年)7月10日	
設立	1941年(昭和16年)9月20日	
資本金	26億6千3百万円(東証1部上場)	
社員数	(単体) 308名 (連結) 957名	
主な事業内容	医薬・FC事業	HBC事業
	化学品事業	食品事業
主な事業所	・大阪支店 大阪府大阪市	
所在地	・富山支店 富山県富山市	
	・名古屋支店 愛知県名古屋市	
	・福岡支店 福岡県福岡市	
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行	

## 取締役および監査役 (2019年11月30日現在)

代表取締役会長	岩城 修	社外取締役	越智 大藏
代表取締役社長	岩城 慶太郎	社外取締役	川野 毅
専務取締役	今野 高章	社外取締役	二之宮 義泰
常務取締役	大森 伸二	常勤監査役	山口 誠
取締役	熱海 正昭	常勤監査役	磯部 俊光
取締役	瀬戸口 智	監査役	安永 雅俊
取締役	古橋 勝美	監査役	秋山 卓司

## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL <a href="https://www.iwaki-kk.co.jp/">https://www.iwaki-kk.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱えませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株式の状況

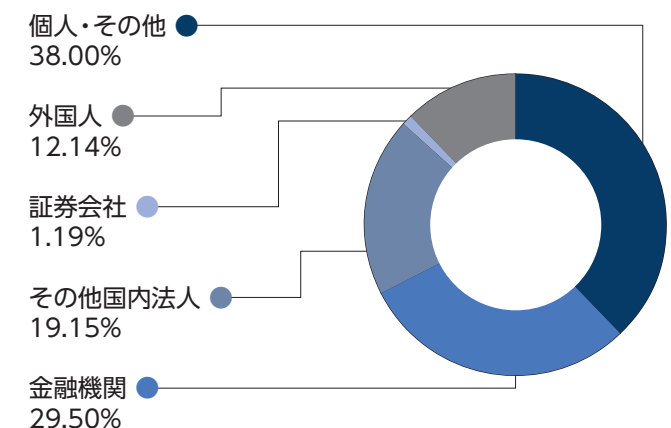
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済株式の総数(自己株式909,553株を含む)	34,636,058株
株主数	10,617名

## ● 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,631	7.80
株式会社ケーアイ社	2,051	6.08
株式会社CNV社	1,720	5.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,569	4.65
株式会社三菱UFJ銀行	1,188	3.52
岩城修	970	2.87
イワキ従業員持株会	890	2.64
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	846	2.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・76082口)	687	2.03
株式会社大阪ソーダ	658	1.95

(注)持株比率は自己株式(909,553株)を控除して計算しております。

## 株式分布状況(所有者別分布状況)



(注)小数点第2位まで記載(第3位以下は切り捨て)しております。持株比率は自己株式(909,553株)を控除して計算しております。

イワキのホームページでは、様々な企業情報やIR情報をお届けしています。  
どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください！

スマートフォンでも  
ご覧いただけます。

**IWAKI & CO., LTD.** イワキ株式会社 ENGLISH サイト内キーワード検索

ホーム 情報情報 事業案内 関連会社一覧 会社案内 採用情報 お問い合わせ

**ここをクリック**

IR情報 ニュース 展示会情報 もっと見る

2020/01/27 **NEW** 株式の取得（子会社化）に関するお知らせ (220KB)

2020/01/27 **NEW** イワキ株式会社による前田薬品工業株式会社への資本参加に関するお知らせ(156KB)

2020/01/22 **NEW** 取締役向け信託型株式報酬制度の継続及び一部改定に関するお知らせ (176KB)

2020/01/22 **NEW** 役員の変動に関するお知らせ (102KB)

2020/01/16 **NEW** 2019年11月期 Factbookを掲載しました。

IR情報 IR Information

イワキの歩み 数字で見るイワキ

次の100年に向けて

イワキの基本データ

創業 100 年以上 連続売上高 600 億円以上

**事業内容**  
イワキグループの事業内容について紹介します

ファインケミカル事業

高度技術を使用した医薬関連原料をご提案  
医薬品原料の製造から販売までを行っています。

取組品目

- ・製剤原料
- ・高純度原料

医薬事業

製剤技術をコアに、さまざまな医薬品をご提案  
医薬品の開発から製造までを行っています。  
また、製剤開発コースなどのOEM/ODM業務や、製剤技術の提供も行っています。

取組品目

- ・ピチミン錠
- ・ジェネリック錠剤/錠剤
- ・ラゲル錠

HBC・食品事業

ヘルス&ビューティーケア、食品に関わる原料から製品まで幅広くご提供

取組品目

- ・1,3-ブレンジブロール
- ・アミノ酸配合の天然香料トリウム
- ・糖質エキス
- ・トマトパウダー
- ・天然糖蜜エキス
- ・アミノ酸配合の天然香料トリウム
- ・糖質エキス
- ・天然糖蜜エキス

化学品事業

きめ細かいサポート体制で多様なニーズにお応えする表面処理薬品メーカー

取組品目

- ・プリンチ製膜用薬品
- ・一般用多層薬品
- ・電子部品用薬品
- ・半導体用薬品

皆様方からのアクセスをお待ちしております！

<https://www.iwaki-kk.co.jp/>

▲ 各事業内容のご紹介は勿論のこと、当社事業の強みや特徴などについても詳しくご説明しています。



**イワキ 株式会社**

〒103-8403  
東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号  
電話：03-3279-0481



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。